

# 「障害学のリハビリテーション」とは何か

日時 2014年3月8日(土)

午後1時-5時(開場12:30)

会場 東京大学本郷キャンパス

経済学研究科棟地下1階 第一教室

入場無料

主催:社会的障害の経済理論・実証研究(REASE)(研究代表者:松井彰彦)

発表者 川越敏司(公立はこだて未来大学) 川島聡(東京大学) 星加良司(東京大学)  
指定発言者 森壮也(ジェトロ・アジア経済研究所) 西倉実季(同志社大学) 大野更紗(作家)  
司会者 長瀬修(立命館大学)

## プログラム

13:00-13:05 開会の言葉 松井彰彦

13:10-13:40 星加良司 「社会モデルの分岐点—実践性は諸刃の剣?」

13:45-14:15 川越敏司 「障害の社会モデルと集団的責任論」

14:25-14:55 川島聡 「権利条約時代の障害学—社会モデルを活かし、越える」

## 指定発言

15:00-15:15 森壮也 「『障害学のリハビリテーション』でまだ論じられていないこと」

15:15-15:30 西倉実季 「「未知なる発展可能性をひらく」リハビリテーションのために」

15:30-15:45 大野更紗 「「医療モデル」を、再び問う—インペアメントから、離れ難き者たちから」

15:55-16:55 全体討論

16:55-17:00 閉会の言葉 松井彰彦

情報保障:手話通訳、文字通訳、磁気ループ

車イスをご利用の方、介助者同伴の方、盲導犬同伴の方、  
点字レジュメ、拡大文字レジュメ、磁気ループをご利用の方は、  
お申し込みの際に登録フォームにてお知らせください。

参加登録は <http://www.rease.e.u-tokyo.ac.jp/> よりREASE公開講座ページへ



## 社会的障害の研究から経済理論や社会の歪みをみつめ、経済学を考える

今回の公開講座では、REASEのメンバーである川越敏司、星加良司、川島聡が、それぞれの専門分野(経済学、社会学、法学)から、障害とは何か、障害学とは何か、という問いに迫ります。さらに、REASEのメンバーである森壮也、西倉実季、大野更紗が、指定発言者として、それぞれの観点から問題提起をし、フロアーを交えて、発表者とともに、この問いをめぐる議論を深めていきます。この公開講座が、発表者3名が編著者となって上梓した専門書『障害学のリハビリテーション』(生活書院、2013年)の趣旨と内容をいっそう掘り下げる機会となり、学際的な観点から「障害を問い直す」ことにつながればと思います。

Research on Economy And Social Exclusion  
社会的障害の経済理論・実証研究